

Title	保険市場の開拓に関する一研究 - 医療保障分野を事例として -
Sub Title	
Author	加藤賢二(Katou, Kenji) 藤枝省人
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1986
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1986年度経営学 第465号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001986-0465

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 加藤賢二 主査 藤枝省人
(日本生命保険相互会社) 副査 加藤寛
所属ゼミナール 藤枝省人研 青井倫一
田中滋

保険市場の開拓に関する一研究 —医療保障分野を事例として—

本論文は、成熟産業、規制産業である生命保険会社が、たとえば医療保障市場の開拓・創造のための戦略を考える一助となるものである。

論文のテーマ(仮説)は、大きく2つある。仮説1は、「消費者の健康不安が高まれば、医療保障ニーズも高まる」である。この仮説は、消費者が危険回避的になるほど、危険プレミアムを多く払っても良いと考えるという「効用理論」から導かれる。仮説2は、「消費者の、公・私どちらの保障を望むかの判断は、情報量の差や関心の程度によって影響されている。」である。この仮説は、医療保障の財としての特質(公共財、<メリット財>、条件付き財)と、内外の医療保険制度を検討をした上で設定された。

仮説の検証は、仮説1については、有識者アンケート、サラリーマン(日・米)アンケートを実施し、判別分析(数量化理論Ⅱ類)重回帰分析を用いて行い、仮説2については、有識者アンケートを判別分析(数量化理論Ⅱ類、Ⅲ類)を用いて行った。結果は、モデル式やサンプルに問題はあつたものの、仮説1については、概ねその妥当性が確認された。仮説2については、妥当性が確認できたとは言えないが、その傾向があることがわかつた。

尚、本論文では、民間の医療保障市場の拡大に大きな影響を及ぼす、大蔵・厚生両省の官僚行動について、公共選択論から分析している。そして実際にインタビュー調査を実施し、両省の官僚は、医療保障を省庁間問題ととらえていないこと等を確認した。

これらの仮説の分析結果を受け、①医療保障ニーズ拡大のためにパブリシティ活動等での健康関心の昂揚、②適切な情報提供による消費者教育等、生保無関心・無期待層に的を絞つたセグメント戦略の構築、③長期的には、官民協力体制の構築、の3点を提言している。

最後に、本論文では、保険市場開拓のための残された課題の一つとして、生保の戦略ドメイン(社会的責任)をどこに求めるか、が指摘されねばならない。